

令和3年度全国学力・学習状況調査 分析

1 成果及び課題

(1)【国語】

領域等では「読むこと」「書くこと」が年々伸びてきている。朝読書活動や、語句の意味調べ、漢字の小テストを常日頃から行っている成果であると言える。課題としては、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「短答式」に関する項目が前年よりも下がっている。特に、「話すこと」については、コロナ禍で話し合い活動が制限されていたことも影響していると考えられる。

(2)【数学】

これまでに引き続き、全国平均を大きく上回っている。例年に比べて、「記述式」の正答率が高くなった。領域では、「図形」分野の正答率が高くなっている。課題として、全国平均を上回っているものの、「関数」分野の正答率が昨年度を大きく下回った。これはコロナ禍であり、前年度に行った、授業の中で多様な関数のグラフについての話し合いが、十分に行うことができなかったことも影響していると考えられる。

(3)【学校質問紙調査】

例年よりも、「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」という自己有用感・肯定感を示す項目について、高い数値となっている。生活習慣についても、昨年度よりも高くなっており、日々の生活指導の成果を表している。また規範意識として、いじめは絶対に許されないというものであるという感覚が、年々上昇している。

学習に意欲的な生徒や学習の必要性を感じる生徒は、昨年に引き続き全国よりも高い数値である。特に、「自分の思う意見について考えるのが楽しい」「自分の思っていることをきちんと言葉で話すことができる」という項目についても、高い値となっており、話し合い活動などの授業の成果だと考えられる。

2 改善目標及び具体的な手立て

(1)【改善目標】

- ①国語：「話すこと・書くこと」の力を伸ばす
- ②数学：生活の中にある数学に目を向け、数学を活用して問題解決ができるようにする
- ③より生徒の学習意欲を高める

(2)【具体的な手立て】

- ①国語の授業において、目的意識・場面意識・相手意識をもって話す場面を多く設定していく。小グループなどの話し合い活動を通じて、説明したり質問したりする力をつけていく。また、国語の授業以外でも、意見を交流しやすい人間関係作りを進めていく。
- ②単元の導入で日常の身近な問題を取り扱い、日常の中にある数学に目を向けさせる。単元の最後に生活に即した問題を活用問題として扱い、問題解決力を身に付けさせる。
- ③学習意欲を高めるために、主体的・対話的で深い学びを授業に取り入れ、改善を図る。また、「わかった、できた」と言い合える関係づくりに努め、安心して学び合える授業づくりを推進する。